



# 夏祭り



第119号  
発行

〒970-8003  
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地  
TEL (0246) 23-5311  
FAX (0246) 23-5312  
はまぎく荘新聞編集委員会  
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>  
E-mail: [kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp](mailto:kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp)

●紙面紹介●

- 1面 夏祭り/遠足
- 2面 面会日レクリエーション  
自治会選挙/お楽しみ会  
ミニ運動会
- 3面 研修報告
- 4面 入所者紹介  
半年間働いてみて  
日本郵便補助金での福祉車  
両購入/編集後記

旅行とみはま福祉祭りが中止となった為、今年もはまぎく荘内で夏祭りが開催されました。今年、いわき踊り・カラオケ大会・ゲーム二種類・屋台二種類・花火大会を行いました。

いわき踊り：お神輿は、昨年よりもキラキラな装飾がブラされたり、お神輿が置かれた机の周辺に間接照明が置かれたりして、豪華なものとなりました。音楽を鳴らし、参加者全員でお神輿のまわりをぐるぐる回りお祭り気分を感じました。

カラオケ大会：利用者に人気のカラオケも行いました。職員に歌いたい歌を伝え、ニコニコ笑顔で歌を歌いました。ゲーム：今年のゲームは、くじ引きと輪投げでした。くじ引きは、箱から小さな紙を取り出し中を見た後、くじ引きのテーブルに出してあるおもちゃや雑貨から好きなものを選びました。輪投げは、手製の輪っかを可愛いぬいぐる

るみに入れた後、好きな飲み物を選びました。くじ引きで当たったり輪投げでぬいぐるみに輪っかが入ったりすると『当たった』『入った』『等嬉しそうに話していました。』

屋台：今年の屋台は、かき氷とたこ焼きでした。かき氷は、シロップがかかったかき氷に少し凍った果物が盛り付けられ、昨年より豪華なものになりました。昨年と違うかき氷に『もつと食いたい』と話す利用者もいました。たこ焼きは、初の登場でした。黙々と食べた後『美味しい』との声がかれました。

花火大会：今年も、夏祭りの締めくくりは花火でした。手持ち花火はもちろん、打ち上げ花火も行いました。『キレイ』『と笑顔で目を輝かせている利用者が多かったです。』

昨年夏祭りを行っていたので、二年連続の夏祭り開催となりました。利用者にとっても楽しい思い出となつてほしいと思います。

## 遠足

六月二十九日に遠足の代替行事を行いました。コロナ禍前は外出し、お弁当を食べたのですが、感染防止の為、今年には荘内で楽しめる代替行事という形で行い、利用者さん、職員共に楽しみ、大盛り上がりでした。水鉄砲でペットボトルを倒すゲーム、ボールを穴の中に投げ入れるゲーム、虫のイラストをハエ叩きで叩くゲーム、ボウリングゲームを行いました。皆さん、笑顔でゲームに参加してくれたので、私達、職員も嬉しく思います。ゲームをクリアするとお花を一つプレゼント。好きな色のお花を選び、フォトスポットにお花を貼っていき、お花がたたくさんのとても可愛いフォトスポットが完成しました。これからますます暑くなります。新型コロナウィルスは、体調に十分注意し、楽しく過ごしたいです。



# 面会日レクリエーション



例年だと、利用者と保護者が一緒に何かを作ったり、何かを食べたりと、楽しく活動をする面会日。今年もコロナウイルスの影響で中止となりました。しかし利用者にはできるだけ楽しい活動を提供すべく、今回は渡り廊下での大きなポウリング、テーブル上のポウリングに加え、中央ホール全体を使用しての魚釣り等様々なアトラクションを準備しました。

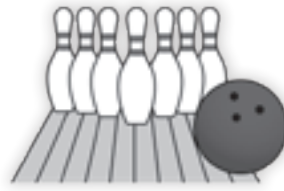
新しい生活様式が板についてきた中、職員も新型コロナウイルス



盆入り、例年であれば利用者の皆さんは、ご家族と過ごす時間を待ち望んでいたと思います。「今年是我慢だね」と次の年も言わざるを得ない状況になるとは想像もしませんでした。

その分、楽しいイベントを多く行なうことで、日々良い刺激を提供したいと考えています。翌週に控えた夏祭りに向けて、法被を着ていわき踊り。洗面器に浮かべた、手

ナウイルス対策を踏まえた行事の立て方が日常になっけています。もちろん慣れなくともよい生活ではあります。が、これもまた経験と思えば少しは前向きに考えることができるのではないのでしょうか。



作りの金魚すくい。好きなシロップを選んで、たっぷりとかけたかき氷。短時間でこじままりとした行事でも、たくさんさんの笑顔を見ることができました。



# 自治会選挙



会長



中野 康夫さん  
「やつちゃん  
がんばるよ」

副会長



吉田 茂さん  
「副会長  
がんばる」



滝口 亜紀さん  
「旅行行きたい」

会計



出崎 一彦さん  
「なんでも  
書くよ」



三瓶 徳子さん  
「がんばるよ」

はまぎく荘で五月に自治会選挙が行われました。会長・副会長・書記に多くの利

用者さんが立候補してくれました。「会長頑張る」「当選したら旅行に行きたいな」「書記頑張る」など役割に対する強い思いが伝わった意気込みのコメントを頂きました。選挙当日、それぞれの役割の投票数の競り合いがすさまじく熱い選挙となりました。同票数で再投票を求めるとなると、天外な事ばかりでした。来年もまた、熱い結果となる選挙になることを楽しみにしていきます。

## お楽しみ会

ジメジメとした夏の暑さを吹き飛ばすため、手作りうちわを製作しました。自分のベストショットをうちわに貼り、シールやモールなどキラキラしたものをつけて、可愛く仕上げの方もいれば、シンプルにスタイリッシュにかっこよく仕上げ方もいました。また、一人では難しい



い方に手を添え、一緒に製作を手伝ってくれる方もいて、助け合いながら楽しむ姿がとても印象的でした。「可愛いね」「上手だね」「それ真似したい」などの声飛び交い盛り上がりました。お気に入りのうちわで、あつ〜い夏を乗り切りましょう！

## ミニ運動会

みまま体育館で開催されたミニ運動会では、玉入れやダンス、デカパンリレーなどの競技を行いました。そして種目ごとに男子と女子のどちらが盛り上がったか、早くゴールできたかなどの基準で所長が勝敗を決め、競い合いながらみんなで楽しみました。

デカパンリレーは職員手作りの大きなパンツを、利用者と職員二人組になって履いて一緒に走る競技でしたが、職員も利用者も必死に汗を流して走り「頑張れー！」の応援が止まないほど盛り上がりました。楽しんで後はもちろん水分補給や写真撮影もしつかり行いました。



# 研修報告



毎年様々な研修を受けているはまぎく荘。今年 Zoom を取り入れての研修が多く、職場にいながらも遠い場所にいる人と勉強ができる利便性を改めて感じました。障害者支援という専門知識が必要とされる仕事のため、どのようなことを学んだのか、5人の職員に報告をしてもらいたと思います。

## 安全運転管理者等講習

七月二十八日、新舞子ハイツにて安全運転管理者等講習を受講してきました。

県内や市内の交通事故発生状況の説明を受けたり、写真を使った交通KYTを行ったりしました。印象的だったのは、事故発生の多い時間帯として、十八時〜二十時との話があり、仕事終

わりで疲れが出たり、気のゆるみが出たりする時間との事でした。入所施設では夜勤業務もあり、業務が終わるころには疲れも溜まっていると思うので、帰宅する際には、思いやりを持って運転に集中する事で交通事故回避できるようです。努めていきます。(野木)



## 社会福祉施設での看護の役割

二〇二五年には、さらに高齢化が進み、認知症の増加が懸念されています。その内六〇%以上がアルツハイマー型で、運動機能障害により、寝たきりとなってしまっています。医療費の五十五%が七十歳以上となり、これを「二〇二五年問題」としています。じょく創予

防、重症化、廃用予防する為には、介護する人の関わり方が重要となり、介護施設の必要性が増し、増々大変になります。増々一人で抱えず、多職種との調整を図り、チーム一丸となり、時には肩の力を抜いて、前向きな姿勢で取り組む事が求められます。(田井)

## メンタルヘルス講習会

七月六日に、オンラインでメンタルヘルス研修(管理者向け)を受けさせていただきました。管理者として、どのような職場づくりを目指すべきか、悩んでいる部下がい

たらどのようにアプローチしていくかなどグループワークで話し合う事が出来、いろいろな意見を聞く事が出来ました。講義の中で「ポジティブな言葉が飛び交う職場は、コミュニケーションが活

性し、そのまま相談しやすい職場風土に繋がる」と話があり、言葉選びの大切さを感じました。(野木)

## ピンポイント介護技術研修

二本松市で行われたピンポイント介護技術研修のオムツ介助編に参加しました。『座学』で介護の基本を学び、『実践』で講師の「これやってみてください」の動きを何種類か

行った介助される側や支援員側の感覚や気持ちを感じました。研修は半日でしたが、相手の立場になり支援することを改めて考えることが出来、参加出来て良かったと思

いました。今後、今回の研修で学んだことを生かしてまいります。(佐藤)

## 全国 GH 研修会

全国グループホーム等研修会に参加しました。会議室にいながら、北は北海道・南は沖縄まで全国のグループホームを見学したり、地域で暮らす

方の話を聞くことができ、Zoomならではの体験でした。今大会テーマ「ありのまま いきていく ちいきのなかで」の言葉通り、例えどんな障がいがあっても、地域の

の一員として、自分らしく表現し、自分らしく生活する権利があります。そんな社会を目指し、当事者の皆さんと私たち支援者、地域の人々が手を取り合っています。(木村)

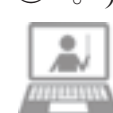


## 相談援助面接研修

オンラインで相談援助面接研修(記録編)を受講しました。この研修は、相談面接の場面での記録の書き方についてが主

でした。私は相談面接の業務をしていませんが、日々の利用者支援の記録にも活かせる内容で、とても勉強になりました。記録はただのメモや備忘録ではなく、専門職の業務の一つであることを意識し、支援の内容や利用者さんとの関わりを記録に残していこうと思

いました。(上遠野)





六月一日より、遠藤純子さんが入所されました。お花の塗り絵が得意な芸術家です。ニコニコ笑顔で、大きな声で挨拶をしてくれる元気いっばいな女性です。はまぎく荘の生活にもすぐに慣れ、遠藤さんが仲間に加わったことで女子棟の雰囲気も一層明るく賑やかになりました。



遠藤 純子さん

七月一日より、同法人の入所施設はまなす荘より、長谷川真弓さんが入所致しました。はまぎく荘には元々、はまなす荘に入所していた利用者さんがいる事、知っている職員がいる事もあり、すぐに

はまぎく荘の生活にも慣れ、毎日楽しく過ごしています。はまぎく荘の利用者さんはこれで、男子利用者十八名、女子利用者十九名の計三十七名となりました。



長谷川真弓さん

### 半年間 働いてみて

支援員 東城 亮介

みなさん、こんにちは。四月よりはまぎく荘に新任職員として職務に就いています。東城亮介です。今、半年間働いてみての感想はここでは述べきれないほど話したいことがあります。まだ慣れない部分は多くありますが、自分と沢山関わってくれる利用者さん、仕事を丁寧教えてくれる先輩方に恵まれ、毎日の仕事に楽しさと感謝の気持ちをもっとと自信を持ち立派な支援

員になれるように百折不撓の精神で頑張っていきたいと思っています。

そして、八月上旬に「利用者主体の支援について」のオンライン新人研修を受講しました。内容は「利用者とのコミュニケーションの取り方」がメインでした。今後、利用者さんとコミュニケーションを多く取るには私自身がキャッチボールでボールを取る広さを広げていくことが必要であり大切だと学びました。学んだことを実践に活かし頑張っていきます。

支援員 上遠野紗雪

はまぎく荘で働き始めてからあつという間に半年がたちました。初めは不安な気持ちしかありませんでしたが、今は徐々に業務に慣れていく事が出来ています。そして利用者の命を預かる仕事の為緊張の日々ですが、誰かの為に全力を注いでいることを誇りに思っています。毎日、はまぎく荘に出勤しています。

ていきたいです。また先日行われたZoomの新人職員研修では、利用者とのコミュニケーションについて学ぶことができました。そして自分の中で課題と

### 日本郵便 補助金での 福祉車両購入

今年度、日本郵便年賀寄付金の社会貢献事業への配分金申請の公募に申請し、令和元年台風十九号の被災者救助・予防の特別枠を活用し、福祉車両の購入をすることができました。今までは、車椅子が一台しか乗れない福祉車両しかありませんでした。はまぎく荘は知的障害者が多く、加えて高齢化、障害の重度化が進んでいるため車椅子の利用

していることを見つめなおすとてもいい経験となりました。今後も自分の課題と向き合い、努力し続けたいと思います。



者が多く、福祉車両は必要です。買い物や通院はもちろん、災害の際には避難のために使えます。できれば楽しいことだけに使用できるように願っております。

### 編集後記

一年もすればマスクをしなくて会話ができると思っていた一年前。新しい生活様式やソーシャルディスタンスが日常になってから、早二年が経ちました。慣れることが良いことはありませんが、ある程度の対応が可能になってきました。先が見えない不安と共に、適応していくことができる人間の強さを感じます。